

南魚沼、農業の将来

「ショーテムービー」農/KNOW THE FUTURE」をご覧になりましたか？

最新鋭のコンバイン20台が広大な田んぼで稲を刈り取りながら疾走する、衝撃的だった初回作から今秋作で3作目に。南魚沼産コシヒカリの販売促進に加え、農業のすばらしさを宣伝しようと、市とJAみなみ魚沼青年部が始めたプロモーション企画でした。

特筆すべきは、市内の若手農業者が自ら企画し、演出・出演していること。撮影から編集、デザイン、果ては音楽まで市内を活動拠点とする若手クリエイター陣が担当しています。まさに「オール南魚沼」でつくられたもので、この地の次代を担う彼らの新鮮な感覚と発想が毎作、躍るようなのです。

第1作の宣伝用チラシは、映画ポスターを思わせるもので、第8回ふるさとパンフレット大賞で「特別賞」を受賞。続く昨年の第2作は、1作目の「躍動感あふれるかっこよさ」から転じて、「誇り」をテーマに。農業を引き継いでゆく覚悟を感じさせる内容で、第1回新潟

ふるさとCM大賞で「グランプリ」を受賞。毎回、「なんとイケメンぞろいなのか！」と好評の声が私にも届きます。

私がこの3年間、何よりうれしく思うのは、これを見た子どもたちが、「農業はかっこいい！」と言いはじめていることです。販売促進に向けた宣伝や移住定住のきっかけづくりなどへの貢献もさることながら、何よりの成果をあげてくれていることを、若者たちに感謝したい。

勢いづく彼らは、今秋作の発表を前に、すでに昨年から予告編を作成。期待感でワクワクする仕上がりになり、「やるなあ。次は合戦か！」と発表を心待ちに。発表当日まで市長にも秘匿された第3作は、何と「溝切り」がテーマに！まだご覧になっていない人の楽しみを奪ってしまうのでここで止めておきますが、あとは市ウェブサイトのトップページから、ぜひご視聴を。イケメンではなかったものの、元青年農業者だった私にも陣ぶれがあれば、馳せ参じましたのにな！南魚沼の将来は明るいぞ。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

シリーズ 第103回

東ティモール民主共和国 デソウザガマ、アレクサンドリーナベリディアルさん



私の国はこんなところ

東ティモールは2002年に独立したアジアで最も若い国です。ローマカトリック、インドネシア文化・ポルトガル文化などの影響を受け、文化や芸術は多様です。料理は、東南アジア料理やヨーロッパ料理など幅広く豊富です。栽培が盛んな有機栽培コーヒーは、世界的に有名です。観光では、高さ27メートルのキリスト像クリスト・レイは外せません。また、青く澄んだ海と白い砂浜の無人島で、ダイビングをして穏やかに過ごせます。冒険好きな人にはトレッキングを楽しむ国内最高峰のラメラウ山や、天然の地熱温泉マロボ温泉もお勧めです。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼市は学業に集中できる、静かで安全な環境です。余暇にはサイクリングや八海山登山を楽しみました。スキーを体験できる雪の降る季節が気に入りました。熱帯の国から来た私にとって、「冬」の体験は忘れがたい思い出です。

この地域のすばらしいかんがいシステムと、高度な技術を駆使した農業の営みを見ることができたことも、いい経験となりました。



編集後記

10月初めに、サツマイモを輪切りにして甘く煮たものが食卓に並びました。食べると、優しい甘さが体に染み渡り、とてもおいしかったです。ちまたでは、「サツマイモの甘煮」と呼ばれているようです。

秋も深まりじきに冬が来ますが、初雪を穏やかに迎え何事もなく、また春を迎えられるよう祈るばかりです。(Y.K)

今月の表紙

10月14日(木)、五日町保育園で食育イベントを開催しました。園児たちは、炊き立ての南魚沼産コシヒカリの新米でおにぎりを自分で作り「おこめ大好き」などと笑顔を見せていました。

市民の動き 令和3年9月末日現在 ( )は対前月比

○人口 54,589人(-56人) / 男 26,720人(-31) 女 27,869人(-25) ○世帯数 19,999戸(18)